

KSTNET WEB版 2005年3月号

1. 県士会会長あいさつ

— 言語聴覚士を取り巻く環境を知り自らの職域を広げよう！

小菌真知子

平成16年度もまもなく終わります。今年度の言語聴覚士を取り巻く社会の流れを知り、これから言語聴覚士として仕事の幅を広げるための行動を起こしましょう。

1. 熊本高次脳機能障害検討委員会設立

ルーテル学院大学の中島恵子先生（心理）が高次脳機能障害モデル事業として神奈川リハセンターで関わってこられた立場から提案をされて、急性期から社会復帰までの高次脳機能障害者に対する対策検討会が県医師会を中心に設置されました。委員は脳神経外科医、神経内科医、精神科医数名と作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士、看護師各職能団体の責任者です。私も当会の代表として会議に出席していますが、STの発言を求められることが多く、OTと共に高次脳機能障害にかかわる職種として期待されていることを感じます。昨年秋の設立記念講演会には500人以上の各職種が参加されました。

社会の高次脳機能障害に対する認識が高まるにつれ、我々はこれに答えられるよう最新の情報収集と勉強が必要です。ぜひインターネットで、「高次脳機能障害」という用語を検索して、広義と狭義の二通りあることを知っておいてください。広義では、後天的な脳損傷に起因する失語症も含まれますが、狭義は行政的に、主に脳外傷後、巣症状はないが記憶障害、注意障害などで社会復帰が困難な例で使われています。今後ますます言語機能以外の高次脳機能障害の評価訓練のニーズは高まってきますので、当然のことではありますが言語機能ばかりでなく脳機能全体を捉えた評価訓練のノウハウを確立する必要があります。平成17年度から年間シリーズで、青照館の橋本武樹先生が高次脳機能障害のリハビリテーションについての講座を開催していただきますが、ぜひ、自分でも最新の書籍で勉強しましょう。参考図書は以下のとおりです。

【神経心理学評価ハンドブック 田川皓一 西村書店 8500円】

【クリニカルリハビリテーション別冊 高次脳機能障害のリハビリテーションver.2. 医歯薬出版 4800円】

2. 熊本訪問リハビリテーション研究会設立

この会はPT、OT、ST協会の公式な会ではありませんが、これからの訪問リハを考えていく上でぜひSTにも参加して欲しいということで、当会から井上理恵子ST、下田祐輝ST、原口昭博STと私小菌が役員として参加しています。やがて介護保険のほうにもSTの訪問が入るでしょうし、すでに医療保険のほうから訪問を始めている病院もあります。このような多職種が参加する会で、情報を得るのは非常に大切です。

私たちが思っている以上に、STの参加が求められていることが分ります。全国訪問リハ協会の会長さんから、「STは人の生命を維持する食べることの援助と人間の尊厳であるコミ

ユニケーションという大切な分野を預かっているのだからもっと積極的に活動して欲しい」といわれました。今後も熊本訪問リハビリテーション研究会が開催されますので、ぜひ積極的にご参加ください。

3. 小児の言語訓練のニード対策（熊本STこどもサポートNET）

全国的にも問題になっていることですが、小児の言語障害児の受け皿の少なさがいわれています。昨日の熊本日日新聞にも、言語障害児の1割くらいしか訓練を受けられないというような記事がありました。これまで、成人の診療科では高齢者が中心で小児を診る発想が乏しかったように思いますが、言語訓練という視点からは小児も成人も全く別のものではありません。昨年9月から、成人の診療施設で小児を受け入れるための勉強会を始めて、この半年でも初めて小児を受け入れる施設が増えてきています。これからますますST養成校の卒業生が増えていくと思いますが、まだ、言語聴覚士の援助を受けられないで困っている言語障害を持つ人々のためにも私たちの力の発揮できる分野を増やす努力をしていきたいと思います。今後も勉強会を開催していきますので、ネットワークを広げましょう。

4. 平成17年度熊本市介護認定審査会委員就任

当熊本県言語聴覚士会は、現在の医療、福祉界の流れを知り、医療各職種との連携を図るために、熊本県医療・保健・福祉団体協議会ならびに熊本市保健医療専門団体連合会に加入しています。年に数回開催される会議には、会長が参加してできるだけ言語聴覚士としてのアピールをしています。最近では随分言語聴覚士の認知度も高まってきて、会議の中でも重要な役割をさせていただくことができるようになりました。昨年9月のシンポジウムを始め、健康フェスティバルの参加など、言語聴覚士の存在を社会に伝える機会を与えていただいています。年に何度か、土、日にご協力を要請をすることがあると思いますが、これも言語聴覚士の社会的認知度の向上、ひいては言語障害を持つ方々のため、と理解いただいてご協力をよろしく願います。

そのような社会参加の一つとして、これまで関わっていなかった介護認定審査会に言語聴覚士の参加を申し入れましたところ、これが承認されまして17年度より審査会に言語聴覚士としての意見が述べられるようになりました。当面は様子が分らないので私が参加しますが、与えられた機会をぜひ大事にしていきたいと思えます。

平成17年度は、熊本県で何人STが増えるかまだ把握していませんが、1施設で2、3人増えるところもあると聞いております。これまでのように、訓練室で処方待つだけではなく、社会の多様なニードに答えられるようわれわれの自己研鑽と積極的な行動が、ますます必要になってくるでしょう。

県士会では3月27日に新人を中心とした研修を予定しています。新人に限定しているわけではなく、これから新人を指導しなければならない立場にいる方々の参加もお待ちしています。

2.九州地区合同学術集会 ～今年度の報告、そして、来年度に向けて～

1月29日、福岡リーセントホテルにて九州地区合同学術集会に参加してきました。午前には演題発表、午後には産業医科大学教授の蜂須賀研二先生の特別講演「高次脳機能障害の最近の動向」とシンポジウム「今注目を浴びている高次脳機能障害、軽度発達遅滞へのアプローチ」と

いうプログラムでした。今回参加してみて、会の準備の段階でお互いが風通し良く、意見交換・情報交換できるかどうか、会の成功を握っていると思えました。来年度は、熊本県ST会が企画致します。より良い会にするには皆様の協力が不可欠と考えています。どんな小さなことでもお気づきのことがあれば、ご意見、アドバイスとして出してくださいと幸いです。来年度・熊本大会は11月12日、産業文化会館で開催予定です。ぜひともこの機会に、経験浅い皆様も演題発表されてはいかがでしょうか？

学術研修部・横山

3.学術研修部からのお知らせ

学術研修部では、県士会主催の研修会の様子を録画したものをビデオライブラリーにして会員に貸し出すサービスを行っておりますが、今回貸し出し可能なタイトルが追加されました。貸し出しをご希望の方は学術研修部 橋本（メディカル・カレッジ青照館）までお申込みください。

[貸し出し可能タイトル（追加）]

4. 第1回学術研究発表会（2004年11月14日）講演「日本語聴覚士協会の現状と都道府県士会の協力体制について」（日本語聴覚士協会地方組織委員会委員 久保 健彦先生） 60分

[貸し出しメディアの種類]

すべてDVD（テープメディアでの貸し出しは行っておりません）

[貸し出し期間]

2週間

[費用]

1タイトルあたり300円（送料は別途必要）

[その他]

貸し出しビデオに関する著作権はすべて熊本県言語聴覚士会が保有していますので、いかなる形態での複製もご遠慮ください。

万一、紛失もしくは破損された場合には、1タイトルあたり3000円をお支払いいただきます。

[申し込み方法]

①氏名、②勤務先、③送付先住所と電話番号、Fax番号および④貸し出しを希望されるタイトルを明記して、橋本 武樹（メディカル・カレッジ青照館 言語聴覚療法学科）までE-mail かFaxにてお申込みください（お電話でのお申込みはご遠慮ください）。

E-mail hashimoto@seishoukan.ac.jp

Fax 0964-54-2213

4.高次脳機能障害講座のご案内

近年、いわゆる「高次脳機能障害」が社会的にも大きな問題として取り上げられるようになってきておりますが、熊本県高次脳機能障害検討委員会が昨年秋に発足し、県内でも言語聴覚士の高次脳機能障害に対する本格的な取組みが要請されるようになってきたことを考慮し、学

術研修部では、メディカル・カレッジ青照館との共催で、「高次脳機能障害講座」を下記の要領で開催することにいたしました。

失行・失認・半側無視といった巣症状だけでなく、注意障害や遂行機能障害などの、脳外傷患者の増加にともなって最近注目されるようになってきた認知機能の障害を積極的に取り上げるとともに、生態心理学などの新しい考えに基づいた治療の方法論を具体的に紹介したいと考えておりますので、どうか積極的にご参加下さい。

お申込み手続きの具体的なご案内は、各回ごとにあらためて行います。

[主催]熊本県言語聴覚士会、メディカル・カレッジ青照館

[会場]メディカル・カレッジ青照館（宇城市三角町波多2864-111）

[内容]別表の通り

[講師]橋本 武樹（メディカル・カレッジ青照館言語聴覚療法学科）

[日時]平成17年5月より隔月開催

高次脳機能障害講座プログラム（予定）		
回数	テーマ	内容
1	高次脳機能障害概論	「高次脳機能障害」とは（神経心理学的定義、認知心理学的定義、外傷性認知機能障害）、外傷性認知機能障害の特異性、外傷性認知機能障害の全体像
	平成17年5月15日（日）	
2	高次脳機能障害の神経病理学	脳外傷の神経病理学（限局性損傷とび慢性軸索損傷）、脳外傷の画像診断
	平成17年7月10日（日）	
3	生態学的心理学	生態学とは、開放系と閉鎖系、中枢制御モデルの限界、行為と環境の関係、アフォーダンス、感覚と知覚、ダイナミックタッチと不変項、オプティカル・フロー、身体による環境の分節化
	平成17年9月11日（日）	
4	各論1：意識障害とそのリハビリテーション	意識とは（覚醒水準と意識内容）、意識障害（意識混濁と意識変容）、意識障害の評価（急性期用、慢性期用）、意識障害の治療（薬物療法、心理学的アプローチ、運動療法）
	平成17年11月20日（日）	
5	各論2：注意障害とそのリハビリテーション	注意とは、注意と情報処理、注意障害の臨床像、注意障害の評価（神経心理学的評価、電気生理学的評価）、注意障害の治療（見かけ上の改善、情報処理容量の増大）
	平成18年1月22日（日）	
6	各論3：行動障害とそのリハビリテーション	行動障害とは、行動障害の臨床像、行動障害の評価、行動障害の治療（薬物療法、行動療法）
	平成18年3月5日（日）	

以下、平成18年度に予定（7.各論4：記憶障害とそのリハビリテーション、8.各論5:知能の低下とそのリハビリテーション、9.各論6:失行とそのリハビリテーション、10.各論7:前頭葉症状とそのリハビリテーション、11.各論8:環境適応障害とそのリハビリテーション、12.まとめ:高次脳機能障害のリハビリテーション）

5.各ブロック活動

[東部]

- ・今年度最後の東部ブロック新人紹介となります。

西合志病院
千明

言語聴覚士

山下

昨年福岡国際医療福祉学院を卒業し、4月の勤務から1年が過ぎようとしています。他の職業から転身し、社会人1年生の心意気で頑張ってきたつもりですが、知識不足や技術不足を省みることも度々です。しかし、責任だけでなく患者様の変化に喜びを感じることができる言語聴覚士という職業は実にやりがいがあると思います。今後、勉強会等にも参加し日々を大切に積み重ね、患者様のお役にたっていきたいと思います。

- ・東部ブロック平成17年度の活動内容について3月11日（金）19：00～くまもと成仁病院にて臨時ブロック会を行います。

[西部]

去る2月10日(木)、西部ブロックの本年度最後の研究会を天草セントラル病院で行いました。内容は症例発表2題。はまゆう療育園齋藤香津子先生の『ボトックス筋注後のAAC導入について』、同じくはまゆう療育園永濱俊介先生の『精神発達遅滞を伴う脳性麻痺の園生様との関わりを通して』でした。

今回は本年唯一小児がテーマとなりましたが、成人が専門の私にとっても実に刺激的で参考になる内容でした。議論も活発に行われました。参加者は7名でした。

西部ブロックは東西に広く、場所的になかなか参加しにくい先生もおられますので、参加できなかった方へのフォローなども来年度はできるだけマメに行いたいと思っています。

また、他ブロックの先生方でも興味のあるテーマの場合には研究会に参加されたり、資料請求されたりなさってください。

[中部]

- ・平成16年11月12日 第4回ブロック会inあきた病院

壁村先生より①施設見学、②検討会「維持期・療養の問題点」という内容で行いました。あきた病院では、全ての病棟が医療療養・介護型病床群（マルメ）のため、積極的な医療の介入が行なわれにくい現状があるとの報告がありました。

- ・平成17年1月 第5回中部ブロック会新年会

新年会では杯を交わしながら、それぞれの先生方の思いや考えを聞くことが出来ました。平成17年度には、各ブロック会からの理事を選出していくことになるので、その際、若者が多い中央ブロック会の若力を活かしましょうと確認しました。

- ・次回開催日時 平成17年3月18日 西日本病院

施設紹介、症例検討「誤嚥性肺炎を呈した症例に対するチームアプローチ」を予定しています。

[南部]

日時：2月26日（土） 15時から17時まで

場所：熊本労災病院

担当：向春苑 中嶋 斐子先生

参加者：20名

第5回南部ブロック勉強会が上記の日程で開催されました。内容は向春苑（老人保健施設）の紹介と施設内でのSTの役割について説明がありました。参加者のほとんどが施設でのSTの必要性を感じました。その後アイスマッサージ（九州労災方式）の説明がなされ熱心に耳を傾けていました。今後の臨床にいかしていきたいという意見が多くありました。

次回の勉強会は5月に中央町温石病院でおこなわれる予定です。参加を希望される方は熊本労災病院 ST折口までご連絡下さい。他のブロックの方の参加も心よりお待ちしております。

[北部]

平成17年2月19日に第3回北部ブロック会を山鹿温泉リハビリテーション病院にて開催致しました。勉強会の内容は施設紹介及び見学、当病院の鹿本失語症友の会の設立～現在までの経過をビデオやスライドを交えお話ししました。

今回の北部ブロック会は3施設9名の先生方に参加していただきました。ブロック会では友の会の設立当初から現在までの変化をビデオでみていただいた感想と、友の会の設立についての意見交換が積極的に行なわれました。既に友の会の活動を行なわれている施設からは、設立当初のお話や友の会の会員様の様子などを具体的にお話いただき、友の会在り方や考えを伺うことが出来ました。また、今後友の会設立をお考えの施設からはSTの関わり方、友の会の頻度や時間帯など具体的な質問がありました。

今回当院の失語症友の会開設に至るまでをビデオや写真などでお見せできたことが、多くの施設において失語症友の会を設立されるきっかけになれば幸いです。県内でも友の会を設立される施設が増加していくことを願い、また今回の勉強会で頂いた御意見を参考に鹿本失語症友の会の活動の充実につなげていきたいと思っております。

6.第4回ボバース概念研究会案内

第4回ボバース概念勉強会を以下の日程で行いますので、参加をご希望の方は、3月22日（火）までに青照館橋本宛にE-mailかFaxにてお申込みください。

[日時]3月26日（土） 午後2時～5時

[場所]菊南病院1階PT訓練室（熊本市鶴羽田町685）

[内容]症例検討（実際の症例に基づく治療デモ、デモ内容に関する講義と実技練習）

[定員]20名（先着順、お申込みのない方のご参加はご遠慮ください）

[費用]資料代実費（当日徴収）

[申込先]橋本 武樹（メディカル・カレッジ青照館言語聴覚療法学科 ボバース概念成人片麻痺上級講習会終了）

E-mail : hashimoto@seishoukan.ac.jp Fax : 0964-54-2213

[注 意]駐車場に限りがありますので、公共の交通機関をご利用になるか、自家用車は乗り合わせでお出ください。

勉強会についての菊南病院へのお問い合わせはご遠慮ください。

実技練習を行いますので、動きやすい服装でお出ください。

